

3月議会が終わりました。

閉会にあたって

ロシアによるウクライナ侵略が続き、国連ではこの侵略を国連憲章違反と糾弾、ロシア軍の即時・無条件撤退を求める決議が加盟国の7割をこえる140カ国の賛成で可決されました。一方日本ではこの危機に乗じて日本を軍事対軍事の危険な道に引き込む「核共有」提言や「敵基地攻撃能力の保有」「憲法9条の改定」が岸田政権や維新の会などから声高に叫ばれました。

こうした状況下3月議会は時間制限が続く中、市議団は平和の取り組み、東松戸病院廃止問題、教育・保育、新拠点ゾーン、新総合計画などについて論戦を展開しました。

東松戸病院廃止条例が論議された健康福祉常任委員会や議会最終日には、会場に入りきれない傍聴者であふれました。残念ながら廃止条例は可決されませんでした。実施は2年後。日本共産党は市長選・市議選へと闘いを継続し、存続に向け引き続き市民の皆様と全力で取り組みます。7月には参議院選挙が実施されます。共産党の躍進・市民と野党の共闘の勝利で何としても憲法改悪を阻止しましょう。お忙しい中、傍聴や署名にご協力いただきありがとうございます。

日本共産党松戸市議団

2022年3月29日

【代表質問】

○平和の常設展の実施と市長の憲法9条への姿勢について

平和への意識の高揚を図るために常設の平和の展示を行うべきと求めましたが場所がないとのやる気のない答弁でした。また市長の憲法9条の姿勢を問う質問に部長が「個別にコメントすることは適当でない」と答弁しました。

○データの活用が目的のデジタル化は問題

政府が進めるデジタル化は、国民の個人情報保護は規制を緩め、企業がよりデータを活用しやすくする内容であり問題です。そのようなデジタル化には安易に参加すべきではないと求めましたが、セキュリティ対応等を十分に確認すると参加を否定しませんでした。

○新拠点ゾーンの区画整理事業認可申請「粛々と」

「新拠点ゾーンへの移転はゼロベース」を前提に、現在公共施設再編検討特別委員会で市庁舎の議論が行われています。しかし市は市庁舎移転を前提とする新拠点ゾーンの区画整理の手續きを進めようとしています。この点について質問したところ、詳細な施設計画が決まらなくとも区画整理事業への着手は可能との答弁でした。市は「移転はゼロベース」と言いますが、その裏で着々と移転への準備が進められていることは議会軽視であり看過できません。

○新松戸駅東側地区土地区画整理事業の土地希望者の希望はかなうか。またスケジュールは。

土地希望の地権者12名の方がマンションではなく土地に移ることは可能との答弁はありましたが、いまだ計画に納得していない地権者がいるにもかかわらず、令和5年度末に仮換地指定を予定との答弁がありました。地権者の反対にもかかわらず、とにかく前のめりで計画を進める市の姿勢は問題であり、一旦立ち止まり計画を見直すことを求めました。

○新型コロナウイルス・発熱しても検査も治療も受けられない状況について

第6波では発熱しても検査も治療も受けられない状況となりそれについての認識をたえました。市は医療体制確保に努めたが十分ではなかったとの認識を示しました。未だ収束の見えないコロナ対応として、PCR検査の拡充、医療の充実を求めました。

○市長の公約「国保料引き下げ」について

党が昨年行った市民アンケートで2番目に多い要望が国保料の引き下げでした。しかし来年度から国保料の引き上げが決まりました。「市長の公約違反」をただす質問に、市長は答弁に立たず、しかも公約違反には一切触れない答弁に議場はブーイングの嵐となりました。

○子育て日本一の実態は？

本市は民間の共働き子育てランキング日本一だと宣伝しますが、本当にそうなのか、実態をたえました。市が進める小規模保育所は、保育内容は保育所任せで、質の担保もガイドラインの配布にとどまっており、子どもの最善の利益実現は不十分です。

○教員未配置は正規職員の抜本的増員で

本市で担任がいけないという異常な状態が常態化しています。その改善は正規職員の増員です。市も同じ認識であり、県教育委員会へ引き続き働きかけを行うとの答弁でした。子どもの学びの保障には一刻の猶予も許されません。その他、東松戸病院廃止には反対し存続を求めました。

市民合意なしに自民・公明など廃止条例を強行!

市立東松戸病院・梨香苑をなくさないで!

昨年8月末に突然、東松戸病院・梨香苑の廃止が新聞報道によって市民に知らされ、わずか半年後の3月議会に廃止条例が提案されました。市民への説明も検討期間も十分のまま、多くの市民の存続の願いを踏みにじり、自民・公明などの賛成多数で廃止条例が可決成立となりました。廃止の大きな理由は「経営改善を図ったがコロナ禍で利用者が減少し経営が厳しさを増した」と「施設の老朽化と耐震性に問題があり建て替えが必要だが財政上困難」ということです。しかし、この廃止の理由に対して、東松戸病院・梨香苑周辺の市民に限った市長不参加の5回の説明会でも、またパブリックコメントでも「納得できない、廃止は反対」という声が圧倒的でした。

「東松戸病院は公立病院としてコロナ対応も行い、まして東葛地域で慢性期・回復期の病床が3000床近くも不足している中で廃止はとんでもない、建て替えて存続を」として廃止に反対する「存続を求める会」などの団体や個人から5500筆を超えた署名が市長に提出されています。市の対応は市民の意見にまともに対応せず「廃止ありき」の姿勢で進められています。

東松戸病院・梨香苑は、「松戸市の急速な高齢化へ備えた高齢者に対する保健・医療・福祉の連携した包括的な医療の拠点」として30年前開院し、回復期・慢性期の入院・リハビリ・緩和ケア・老健施設が一体となった地域に根ざした公立病院です。緑豊かな環境に囲まれて利用者は癒やされ、高校生も含めて地域の方は施設や利用者へのボランティア活動を行ない、医療内容でも病院機能評価で優良の認定を受けています。

2つの市立病院は、急性期と回復期で補い合う互いにくてはならない病院です。東松戸病院・梨香苑の廃止は撤回するように求め、引き続き存続に取り組みます。

